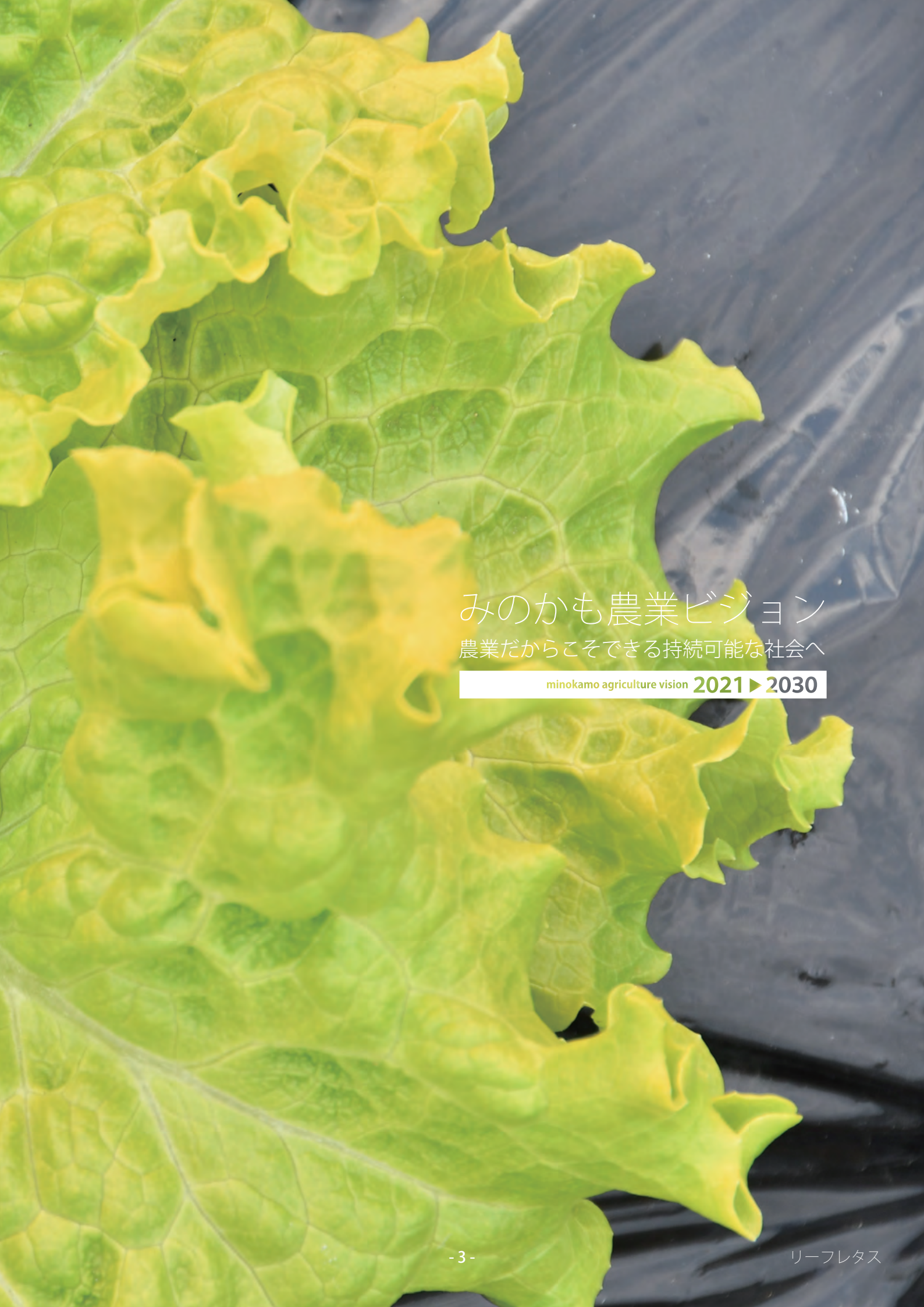
みのかも農業ビジョン

農業だからこそできる持続可能な社会へ

minokamo agriculture vision 2021▶2030



みのかも農業ビジョン

農業だからこそできる持続可能な社会へ

minokamo agriculture vision 2021▶2030

リーフレタス

CONTENTS

みのかも農業ビジョンの策定にあたり　P5

1 みのかも農業ビジョンが目指す 2030 年の農業の姿　P6

■ 農業だからこそできる持続可能な社会へ

■ 農業をつむぐ人づくり

2 政策推進方針と 3 つの重点政策　P7

3 重点政策

■「担い手育成」- 地域で多様な担い手づくり -　P8

主要な施策

・次世代の担い手育成
・担い手育成法人への支援
・兼業農家・集落営農組織への支援
・スマート農業技術による支援
・農福連携による高齢者・障がい者の健康増進
・農業サポーターの育成

■「食の循環」- 地域内循環と販路の確保・拡大 -　P12

主要な施策

・食料自給率の向上
・地域内での食循環
・みのかもブランドの育成
・食による健康づくり
・食育の推進
・消費者・販売店との連携

■「環境保全」- 美しい農地を未来へつむぐ -　P16

主要な施策

・農地の風景・環境の保全
・耕作放棄地の解消
・グリーンインフラ
・生物多様性の実現
・鳥獣被害対策の推進
・農業から低炭素社会を実現

4 美濃加茂市の農業の現状（2015 年農林業センサスから）　P20

みのかも農業ビジョンの策定にあたり

私たちの健康、暮らす環境に密接に関わっている農業はこれからの持続可能な社会への重要なファクターであり、可能性を秘めています。農業から持続可能な社会を描いていく道標として、みのかも農業ビジョンを策定し、農業から美濃加茂市が目指すべき未来の社会構造を創造していきます。

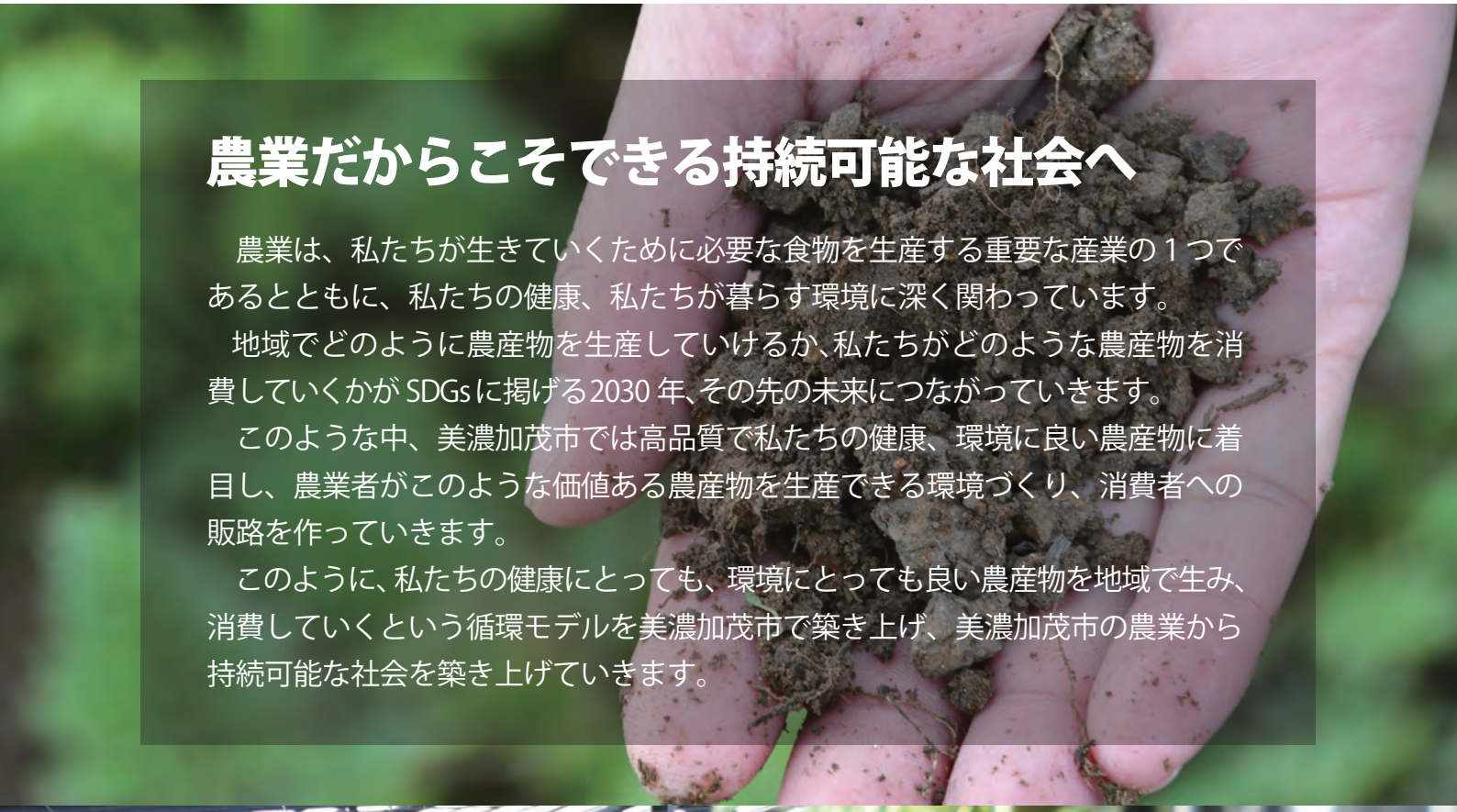
第６次総合計画『Walkable City Minokamo』でもキーワードの１つとして「健康」を掲げており、みのかも農業ビジョンを整合性を図りながら推進することで健康なまちを農業とともに創っていきます。

美濃加茂市は濃尾平野の北部に位置し、平坦地と中山間地域から農地が形作られています。国をはじめ岐阜県も農業を重要な産業の一つとして支援を行っていますが、当市はそれに加え、みのかも農業ビジョンにおいて【担い手育成】【食の循環】【環境保全】という３つの主要政策を軸により地域の実情や土地柄に合った支援を行っていきます。

美濃加茂市長　伊藤誠一

ハツシモ

みのかも農業ビジョンが目指す2030年の農業の姿



農業だからこそできる持続可能な社会へ

農業は、私たちが生きていくために必要な食物を生産する重要な産業の１つであるとともに、私たちの健康、私たちが暮らす環境に深く関わっています。

地域でどのように農産物を生産していけるか、私たちがどのような農産物を消費していくかがSDGsに掲げる2030年、その先の未来につながっていきます。

このような中、美濃加茂市では高品質で私たちの健康、環境に良い農産物に着目し、農業者がこのような価値ある農産物を生産できる環境づくり、消費者への販路を作っていきます。

このように、私たちの健康にとっても、環境にとっても良い農産物を地域で生み、消費していくという循環モデルを美濃加茂市で築き上げ、美濃加茂市の農業から持続可能な社会を築き上げていきます。

農業をつむぐ人づくり

美濃加茂市では農業者の一人一人が様々な形で地域の担い手となり、堂々と農業を行っていける環境作り、今まで磨き上げられてきた農業技術や農地を次世代の農業者へつむぎ、新たな農業者を生んでいける仕組み作りを行っていきます。

さらに、幼少期より「里山×STEAM MINOKAMO2030プロジェクト」に基づき、持続可能な社会や農業を学んでいくことで、SDGs時代に未来にわたって農業を支える人、関わる人を増やしていきます。

政策推進方針と３つの重点政策

みのかも農業ビジョンが目指す 2030 年の美濃加茂市の農業の実現、その未来に向けて、第６次総合計画や各種計画との整合性を図りながら、当ビジョンにおいて「担い手育成」「食の循環」「環境保全」を重点政策として位置付けし、当市の農業政策を推進します。

また、当ビジョンの実効性を持たせるために、各政策に対応した事業の実施、それに対応した KPI を設定し、事業の進捗管理を行っていきます。

重点政策
担い手育成

地域で多様な担い手づくり

美濃加茂市では私たちの健康や社会を支えている農業という職の魅力やこれからの社会における可能性を伝えながら、親鳥がひなを育てるように、ベテランの担い手が新たな担い手を生むという未来へ向けて循環する仕組み、誰もが地域農業の担い手となれる仕組みを作っていきます。また、このような循環を盤石なものにしていくため、担い手を取り囲む地域の方、関係団体が一丸となってサポートする体制作りや、先人が培ってきた技術の伝承、農作業の効率化を最新の技術を用いて研究し、サポートしていきます。

小かぶ

主な6つの施策

1. 次世代の担い手育成
2. 担い手育成法人への支援
3. 兼業農家・集落営農組織への支援
4. スマート農業技術による支援
5. 農福連携による高齢者・障がい者の健康増進
6. 農業サポーターの育成

関連計画

Walkable City Minokamo

健康増進　女性若者活躍　多文化共生　産業振興　地域再生

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

成果指標（KPI）

■多様な担い手の認定数　80（現在（R2））▶ 100（2030（R12））

1 次世代の担い手育成

担い手の卵を地域で孵す

美濃加茂市には県立加茂農林高等学校がありますが、卒業生の多くは農業関係ではない他業種へ就職しているのが現状です。このような中、美濃加茂市では「里山 ×STEAM MINOKAMO2030 プロジェクト」などを通じて農業が持続可能な社会の基盤であり、持続可能な社会のニーズに沿った最先端の職業になっていくという可能性と魅力を子どもたちに伝え、「自分の住む地域で農業をしたい」と思えるような人材教育を支援していきます。

▲市内中学校での出前授業

▲加茂農林高校での里山 ×STEAM 授業

2 担い手育成法人への支援

担い手が担い手を育てる仕組みづくり

農業をなりわいとして担い手となるためには、良質な農産物を作る知識と技術はもちろん、販売や経理といった経営力、地域住民や近隣農家との良好な関係性を築いてくことが必要です。

しかし、担い手の卵といえる新規就農者がこのような技術や能力を身につけ、関係性を築いていける環境は少なく、大きな課題の一つとなっており、美濃加茂市の特産である堂上蜂屋柿や梨などの果樹農家への新規就農でも同じ課題を重く抱えています。

そこで、美濃加茂市ではベテランの担い手と新規就農者を「雇用」という形でマッチングすることで、新規就農者が農業を営むために必要な技術や能力、地域とのつながりを働きながら自分のものにしていける環境を作り、新規就農者が地域の柱となる担い手になる仕組み作りを行っていきます。

また、新規就農者だけでなく、雇用主となるベテラン担い手への支援、新規就農者を周囲がサポートできる環境も作っていきます。

3 兼業農家・集落営農組織への支援

地域の農地をみんなで守る

地域の農業は個人の担い手だけでなく、兼業農家、地域の方により形作られています。

このような地域の結びつきや関係性を次世代につないでいけるようにするためにも、複数の兼業農家などによる機械の共有化や、地域住民や兼業農家で組織して作る集落営農組織による機械導入などを応援し、個人の担い手だけでなく、兼業農家や地域の方が集団として地域の担い手となれる環境を作っていきます。

▲農事組合法人みわほたる

▲耕作放棄地の再生作業

4 スマート農業技術による支援

担い手の未来をスマート技術で支援

▲スマートグラスによる堂上蜂屋柿の技術伝承

▲ドローンによる薬剤散布

良質な農産物を生産し、効率的に農地を管理していけるようにスマート農業技術による技術伝承や農作業サポート、新たな技術開発を行っていきます。ベテラン担い手の目線と同じ映像を見ながら栽培技術を学べるようにしたスマートグラスの活用による技術伝承や、ドローンの活用による農作業の負担軽減など、スマート農業技術導入の支援を行います。また、「里山 ×STEAM MINOKAMO2030 プロジェクト」をベースとして新しい農業技術の研究開発を行っていきます。

5 農福連携による高齢者・障がい者の健康増進

農業で心も体も健やかに

農福連携により障がい者雇用の確保や高齢者の就農に対し、岐阜県など関係機関と連携して支援し、農業が新たなやりがい・生きがいとなり、収入を得ながら農作業を行い、心も体も健康になっていく仕組み作りを行っていきます。

農業サポーターの育成 6

もっと農業を身近なものに

農地や農機具を持っていなくても、誰でも美濃加茂市の農業に関われる形を作ります。農作業の対価として地域通貨などを使用することで、農作業を行うだけでなく、地域通貨などを通じた地域内での経済循環を推進し、継続的に農業サポーターとして地域の担い手へ関われるような仕組みの形成、地域内外から美濃加茂市の農業に関わる人を増やしていきます。

― 重点政策 ―

食の循環

地域内循環と販路の確保・拡大

美濃加茂市は農業から地域のみなさんの健康、地域内の経済循環を応援します。生産者がより安全で品質の高い農産物をつくるためのサポートをはじめ、農産物の安全基準・環境負荷基準を定めた“みのかもブランド”を作ることで、経済循環を促進するとともに、農業から持続可能な社会を構築できる仕組みを作っていきます。

また、生産だけでなく、収穫した食材のおいしさや栄養価をさらに引き出すレシピの発信、学校給食などを通じて自分の体を形作る食について触れることで、幼少期から食の大切さ、重要性について教育を行っていきます。

濃姫

主な6つの施策

1 食料自給率の向上
2 地域内での食循環
3 みのかもブランドの育成
4 食による健康づくり
5 食育の推進
6 消費者・販売店との連携

関連計画

Walkable City Minokamo
健康増進
産業振興
地域再生
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

成果指標（KPI）

■里山印ブランドの取扱店舗

0店舗
現在（R2）
▶
30店舗
2030（R12）

1 食糧自給率の向上

みのかもで食べるものはみのかもで作る

市内で安定的に市内産農産物が供給できるために、市内の水田をフル活用し、水田などのまとまった農地で様々な農産物が生産されるよう、市の奨励作物への転作やそれにかかる機械設備整備などに対して支援していきます。

2 地域内での食循環

みのかもで作ったものをみのかもで食べる

美濃加茂市で獲れた農産物を地域の飲食店、事業所やスーパーなどで地域の方に利用していただくことにより、担い手の安定的な販路を確保するとともに、フードマイレージを短くすることで環境負荷の軽減、地域内で経済が循環する仕組みを作ります。

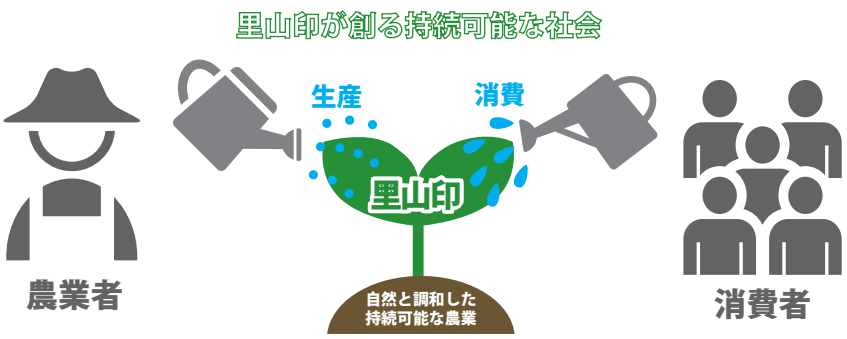
そのために、地域内の飲食店などが地域の農産物を積極的に利用できるよう支援していきます。また、農業者と地域の方による市民マルシェなどの活動を応援していきます。

3 みのかもブランドの育成

里山印を食べることが持続可能な社会へ

これからの持続可能な社会を構築するために美濃加茂市ではみのかも農業ビジョンや里山千年構想を掲げ、自然と調和した農業を推進していきます。

その一環として農薬や化学肥料の使用、環境への負荷の基準を設け、基準を満たしている農産物を「里山印」としてブランド化します。そして、里山印の農産物を食べることで、誰もが持続可能な社会へ寄与することができるというサイクルを消費者へ広く周知することでブランドを育成し、里山印で生産者と消費者が結びつくことによる持続可能な社会を構築していきます。



4 食による健康づくり

みのかもで作ったものを食べることで健康に

私たちの健康と食は深く関係しています。安全でおいしい美濃加茂市でとれた農産物を、味覚でおいしいだけでなく、身体にとってもおいしい農産物として食べてもらえるよう、栄養価を最大限に引き出すレシピの開発を行います。

▲健康課が発行している減塩レシピ

また、医療機関と連携しながら、農産物と健康について研究を行い、個人のバイタルデータなどから、その人の健康に合った農産物、レシピを紹介していくことで、食から私たちの健康づくりを推進していきます。

5 食育の推進

作ってから食べるまでの物語にふれよう

未来の美濃加茂市を担う子どもたちに、市内産農作物が作られてから食べるまでの物語を、給食を通じてふれることで、自分たちと食の関係性や重要性について学ぶ機会を作っていきます。

6 消費者・販売店との連携

みのかもで作ったものを世界へ

Ｅコマースを通じて里山印など、みのかもブランドとして位置付けられた農産物を世界へ販売していくことで、生産者と世界の消費者を結び、持続可能な社会を構築していくとともに、生産者にとっての様々な販路の構築を支援していきます。

無双白菜

重点政策
環境保全

美しい農地を未来へつむぐ

美濃加茂市の農業は木曽川と飛騨川の豊富な水、里山の自然とともに歩んできました。しかし、CO2 の増加などによる地球温暖化や気候変動は地球環境だけでなく、農業を支える環境にも大きな影響と被害を与えています。このような中、美濃加茂市では、先の重点政策である「担い手育成」と「食の循環」の政策に取り組んでいくことで、農業だからこそできる地球環境の保全を行っていきます。そして、先人から引き継がれてきた里山風景や自然循環の仕組み、持続可能な農業を支える環境を農業者、地域の方の全員が堂々と胸を張って未来へとつないでいける仕組み作りを行っていきます。

▲ 農林水産省 HP より引用

主な6つの施策

1 農地の風景・環境の保全
2 耕作放棄地の解消
3 グリーンインフラ
4 生物多様性の実現
5 鳥獣被害対策の推進
6 農業から低炭素社会を実現

関連計画

Walkable City Minokamo
地域再生
防災減災
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

成果指標（KPI）

	現在（R2）		2030（R12）
■耕作放棄地の解消	21ha	▶	**10ha**

1 農地の風景環境の保全

地域のすがたを未来へつなぐ

美濃加茂市には先人から引き継がれてきた水田や畑、果樹園地といった様々な農地があり、まちのやすらぎの景観の一翼を担っています。このような地域の景観を農業者や地域の方とともに未来へつないでいきます。

▲市内の棚田

▲堂上蜂屋柿の天日干し

▲なし農園

2 耕作放棄地の解消

農地という資産を未来へつなぐ

農業にとって農地は重要な資産といえます。市内には大きい農地や小さい農地、中山間地域の農地など、様々な農地があり、耕作放棄地となってしまっている農地もあります。しかし、その農地を再生し、次世代に渡って農地という資産として活用されていくよう、それぞれの農地に適した農産物の作付けや、管理ができるよう支援していきます。

3 グリーンインフラ

農業から安心して住めるまちづくりを

▲三和町川浦川

▲加茂川と農地

農地には農産物を生産するといった役割以外にも防災や減災のための重要な役割があります。農地は宅地や道路などと比べて保水能力が高く、大雨が降った際に川の氾濫を抑制するなど、私たちの生活を守る重要なインフラとなっています。このようなグリーンインフラとしての農地を地域とともに次世代へつなぎ、農業から安心して住めるまちづくりを行っていきます。

4 生物多様性の実現

農業から豊かな自然づくりを

農業分野においても、ホタルやメダカなどの生物を保護し、生物多様性の実現に向けて、低農薬化の実現、無農薬化を目指します。農地における生物多様性の環境を実現するとともに、里山 ×STEAM 教育のフィールドとします。

また近年、市内の水田で、稲などに被害を及ぼしている外来種のスクミリンゴガイ (ジャンボタニシ) 駆除に地域で取り組み、環境の保全を支援していきます。

▲ホタル

▲メダカ

▲ヒカゲツツジ

5 鳥獣被害対策の推進

人と動物が共存できる環境づくり

人の手が届かなくなった里山を整備し、私たちが住む場所と野生動物たちが住む場所との間に緩衝帯を作ることで、人と動物の住み分けを進めるとともに、AI や ICT などを用いた鳥獣捕獲など、鳥獣被害対策を積極的に推進します。

また、地域が主体となって取り組む鳥獣被害対策を支援していきます。

▲緩衝帯（バッファゾーン）の整備

▲地域による有害鳥獣対策ネットの設置

6 農業から低炭素社会を実現

低炭素社会で地球を健康に

世界中で低炭素社会の実現へ向けた取り組みが行われています。美濃加茂市では里山の整備で発生した竹チップと、バイオマス発電から生じる焼却灰などを混合したものを水田のあぜや道路の側面（法面）に吹き付けることにより雑草の抑制を行うなど、里山にある資源を循環させることにより CO2 削減、農作業の負担軽減を図り、農業から低炭素社会の実現に取り組んでいきます。

美濃加茂市の農業の現状（2015 年農林業センサスから）

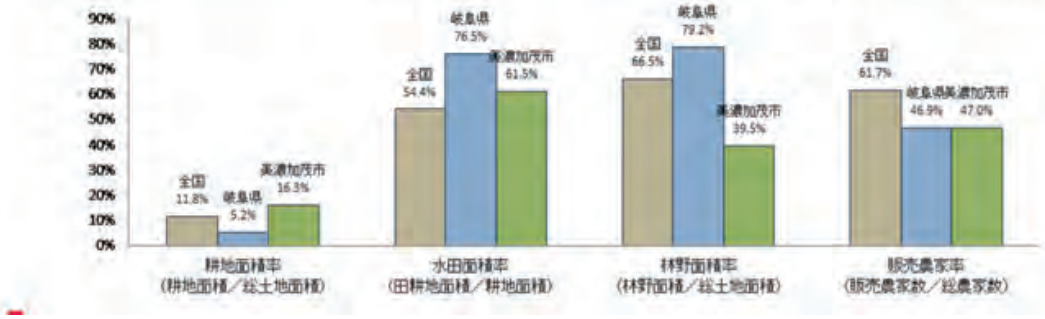
■ 農林水産業の基本指標

■ 面積	
総土地面積	7,481 ha(0.7%)
耕地面積	1,220 ha(2.2%)
田耕地面積	750 ha(1.8%)
畑耕地面積	473 ha(3.6%)
林野面積	2,958 ha(0.4%)
■ 人口	
総人口	55,384 人(2.7%)
農業就業人口	1,072 人(2.8%)
漁業就業者数	…

■ 世帯等	
総世帯数	20,501 世帯(2.7%)
農業経営体数	755 経営体(2.5%)
総農家数	1,565 戸(2.6%)
自給的農家数	830 戸(2.6%)
販売農家数	735 戸(2.6%)
主業農家数	62 戸(2.5%)
準主業農家数	85 戸(2.0%)
副業的農家数	588 戸(2.7%)
林業経営体数	20 経営体(0.4%)
漁業経営体数	…

■ 地域	
農業集落数	73 集落 (2.4%)
農産物直売所数	204 施設(44.2%)
漁港数	-
漁船隻数	…

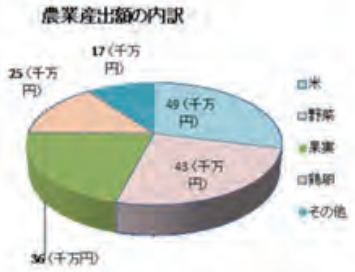
注1：漁港数はH31年値、耕地面積はR元年値、漁業就業者数、漁業経営体数、漁船隻数についてはH25年値、農産物直売所数はH22年値、それ以外はH27年値。
注2：（ ）内は都道府県内でのシェア。

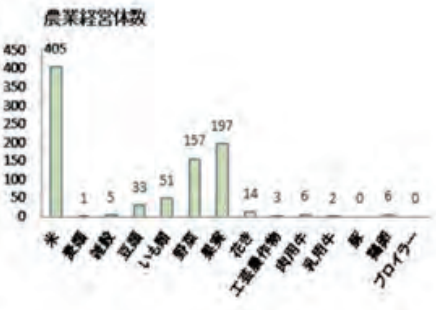


■ 農業部門別の産出額・農業経営体数

■ 農業産出額（推計）		■ 農業経営体数
合計	170 千万円	755 経営体
耕種計	139 千万円	
米	49 千万円	405 経営体
麦類	0 千万円	1 経営体
雑穀	0 千万円	5 経営体
豆類	0 千万円	33 経営体
いも類	3 千万円	51 経営体
野菜	43 千万円	157 経営体
果実	36 千万円	197 経営体
花き	7 千万円	14 経営体
工芸農作物	0 千万円	3 経営体
種苗・苗木類・その他	1 千万円	
畜産計	31 千万円	
肉用牛	3 千万円	6 経営体
乳用牛	2 千万円	2 経営体
うち生乳	X	
豚	-	-
鶏	25 千万円	
うち鶏卵	25 千万円	6 経営体
うちブロイラー	-	-
その他畜産物	-	
加工農産物	0 千万円	

注1：農業産出額(推計)についてはH30年値、農業経営体数についてはH27年値。
注2：農業経営体数の合計は実経営体数のため内訳と一致しない。





玄米（ハツシモ）

発　行　美濃加茂市
発行日　2021 年 4 月
事務局　産業振興部農林課
住　所　〒505-8606
　　岐阜県美濃加茂市太田町 3431 番地 1
電　話　0574-25-2111

minokamo agriculture vision 2021▶2030